



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要			
建物名称	東部ものづくりセンターThomasProjectIHCエリア整備計画IHC棟	BEE	3.1 BEEランク S ★★★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.4 /5		よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.3 /5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.7 /5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	4.6 /5		よい
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満

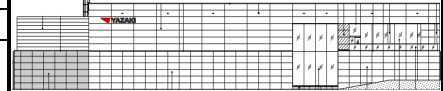
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			4.4	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ③ブラインドと庇を組み合わせて制御している ④事務所)床:タイルカーペット20年、壁:ビニルクロス貼20年、天井:岩綿吸音板30年 工場)床:塗装20年・タイル貼65年、壁:EP塗装15年・塩ビシート:20年、天井:塗装15年、アルミルーバー40年、塩ビシート20年 ④主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤自生種(サクラなどの)の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地づくり、野鳥の生息域の確保など ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦BPI=0.64 ⑨BEI=0.59 ⑩運用管理の組織、体制、管理方針が計画され責任者が指名されており、建物全体のエネルギー消費量の目標値が建築主に提出されている ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓・泡沫水栓・節水コマなどに加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用している ⑫シミスHy-ECOS構法、ハイベスNEO、フラットデッキを採用 ⑬ボード:ブース天井、カーペット:会議室床、ビニル系床材:WC床 ⑫静岡県産材を使用 ⑫躯体と仕上材が容易に分別可能、OAFフロアを採用 ⑬発泡断熱材はノンフロン製品を採用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			3.3
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯熱源種の分散化、空調設備は災害時において重要度の高い系統を優先的に運転可能 ⑰非常用電源の設置、受変電設備の二重化など ⑰光ケーブル、メタルケーブルなど通信多様化、無停電装置の設置など 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱⑲バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている、静岡県福祉のまちづくり条例の基準項目を満たしている ⑳事務所)平均階高3.9m以上、(工場)基準階階高3.9m以上 ⑳0.1≦「壁長さ比率」<0.3 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ⑲内装材に県産材を採用、グリーンアベニューの計画など 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ ⑳ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり ⑳ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			4.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑲敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑲自生種(サクラなどの)の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地づくり、野鳥の生息域の確保など ㉑植栽による良好な景観形成、桜並木の保全など ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑲静岡県産材を使用 ⑲見付面積を小さくし、隣棟間隔を工夫している 	Q-3 1 ⑲ 2 ⑲ 3 3.2 ⑲ LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	⑲ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ・景観への配慮 ⑲ 敷地内温熱環境の向上 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海もりのび付センター-ThomasProject(SHIMEI)7号棟計画(2)CM棟	階数	地上2F
建設地	静岡県裾野市御宿字小鍋沢下1060番1の内	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条区域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2026年3月6日
敷地面積	12,547 m ²	作成者	梅澤 力
建築面積	2,763 m ²	確認日	
延床面積	3,682 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。外装材は敷地周辺の建物との調和した色等を選定している。建物高さをできるだけ低く抑え、周囲への圧迫感を低減している。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される